

提言書

平成20年4月28日

登別市長 上野 晃 様

登別市市民自治推進委員会
会長 田中 寛志

登別市市民自治推進委員会 第4部会より提言が取りまとめられました。
運営委員会にて重ねて協議した結果、別紙のとおり登別市市民自治推進委員会の提言を提出いたします。

記

- 1 鷲別地区の活性化事業
- 2 ステップアップ事業
- 3 地元の観光地の体験事業

1. 鷺別地区の活性化事業

(課題・問題)

鷺別町周辺は、古くから集落が形成されたことなどから、地域の憩いの場などに利用できる十分な広さを持ったオープンスペースがない。

また、鷺別町周辺は新たな観光資源になりうる可能性を秘めているが、有効な活用が図られていない。

(提 言)

漁港・海岸の公共用地などを有効に活用、地域に密着した賑わいのある憩いの場として活用する。

また、鷺別岬は、蘭法華岬や隣の室蘭市のシンボルである白鳥大橋が盛観できるなど最高の眺望ポイントであるため、これを新たな観光のスポットとして対外的にPRし、地域の活性化を図ることが必要である。

2.ステップアップ事業

(課題・問題)

近年、登別温泉においては、従来の団体旅行（ガイド付き）から自由なプランニングができる小グループ旅行が中心となってきているとともに外国からの観光客が増加するなど旅行形態が変化しているが、これらに対する対応が十分ではない。

(提 言)

携帯電話の機能を活かした情報の受発信環境の整備を図り、より詳細な情報の提供や外国からの観光客に対する情報を提供することでサービスの質を高めるとともに、観光客の増員を図る。
また、この機能を利用し地場産品(農水産関連品など)の情報提供も行き地場産業の活性化を図る必要がある。

3. 地元の観光地の体験事業

(課題・問題)

登別市民は、登別温泉など観光の知識が十分でないことから、対外的な旅先で地元観光PRが出来ない。

また、登別市民でありながら、普段、気軽に温泉を楽しむ所の知識が少ない。

(提言)

市民に対して登別温泉など観光の情報を周知することで、温泉の日帰り入浴などの集客を促進する。市民は実際に体験することで登別温泉のPRをするための知識を得ることができ、体外的にPRを行うことにより観光客の増加が図られる。

さらに、登別温泉は全国に自慢できるという意識を市民全体が共通して持つことにより、地区別(部落的)意識が払拭され一つにまとまる効果も期待できる。